

山村さんを訪ねて

那覇市立病院 外科 長 濱 正 吉

医学科同窓生のみなさん、お久しぶりです。お元気ですか。6期卒の長濱正吉です。私たち6期生が今回の南風の編集担当なので一筆書かせていただきます。私は卒後すぐに琉大第一外科（現・消化器腫瘍外科）に入局しました。関連病院出向後、大学院で学位を取得しました。大学勤務後、2013年4月から那覇市立病院に出向し現在に至っております。

私には父親と同年齢の同級生がおります。現在、静岡県で開業されている山村博先生（以後、失礼ながら山村さん、と書かせていただきます）がその人です。「おやじの年で大学に入学するなんて凄いパワーだ・・・。」当時20歳になったばかりの私に強烈なインパクトを与えてくれた同級生でした。とてもまじめな方で単語帳を作成し毎日1日1単語（内容）をコツコツと勉強していた姿が忘れられません。

私が40歳代半ばになったある日、久しぶりに同級生の健ちゃん（現翔南病院：仲地健副院長）と飲んでしていると、山村さんのことで盛り上がり、「そういえば俺たちもとうとう山村さんが大学入学した時と同じ年齢になったんだな！」と深く感慨にふけておりました。その時はちょうど卒後20周年の夏の医学科同窓会前だったので「山村さんに会えたらいいね。」と話ただけでした。しかし残念ながら同窓会に山村さんは出席されませんでした。その後も、時々健ちゃんに会うと「山村さん元気かな？」と話題にのぼり「会いにいけないかな？」と（何度も）話しクアッチーで終わっていました。

なんとなく日々が過ぎていきました。そんなおり山村さんのご親戚のかたが健ちゃんの病院に勤めていることがわかりました。そのご縁？もあり、（2012年秋頃に）「来年こそ山村さんに会いに行こう!!」と再び二人とも盛り上がり、親戚のかたにも「近いうちに山村さんに会いに行きます。」と話してしまいました。当初2013年春頃を目指していましたが、またもや実現せず。健ちゃんは山村さんに年賀状で謝罪？しておりました。年が明け「このままではいけない！」と二人して一念発起（妻も後押ししてくれましたが）、2014年

2月頃から出張その他の日程調整を何度も行い、6月について『山村さんを訪ねて』が実現する運びとなりました。

2014年6月21日（土）8時ちょうどの那覇発・羽田行きの飛行機（あずさ2号？）に私たち2人は搭乗しました。それから東京駅発の新幹線で静岡駅へ。鈍行で12時過ぎには焼津駅に到着（写真1）しました。その日は土曜日。午後まで山村さんの「高島町クリニック」は診療中でした（写真2）。しかし山村さんは私たちに気を遣ってくださり早々に診療を切り上げてくれました。その場で奥様とご対面（写真3）。ご結婚されていることはご親戚の方から聞いておりましたが、なんと奥様は「ウチナーンチュ」ではありませんか！



写真1：焼津駅にて（筆者）



写真2：高島町クリニックの入り口



写真3：（右から）山村さんご夫妻と健ちゃん・筆者